

# シカ、サル、イノシシによる 被害を防ぐために





# 農作物の被害状況

## 丹沢大山地域におけるシカ・サル・イノシシによる農作物の被害状況

(平成13年度有害鳥獣による農林水産物被害等調査などより)

### 被害地域



### 季節別被害状況

丹沢大山地域の季節別農作物被害の状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
<b>シカ</b> 					さつまいも じゃがいも	さといも	さつまいも、じゃがいも			そば		
						山芋、イネ		イネ		落花生		
<b>サル</b> 	みかん				たまねぎ		さつまいも		さつまいも、みかん		みかん	
	大根					かき	なす		くり、かき			
				きのこ						きのこ		
<b>イノシシ</b> 					さつまいも じゃがいも		さつまいも、じゃがいも			さつまいも		
			たけのこ							落花生		
							山芋	とうもろこし	イネ			





## お願い

被害実態の把握や、有害鳥獣駆除について



### 被害実態の把握について

対策を考えるためには、大小を問わず被害実態を正確に把握することが必要です。

県としても、被害実態を把握するため、毎年有害鳥獣による農林水産物被害等調査を行っています。適切な対策を講ずるためにも不可欠な調査ですので、ご協力ください。

### 有害鳥獣駆除について

有害鳥獣の駆除は、鳥獣による農作物被害が現に生じていたり、その恐れがある場合、また、被害防除対策によっても被害等が防止できないと認められるときに行われます。シカ、サルは県が、イノシシは市が捕獲の許可をしています。

また、これらの鳥獣を「わな」等によって捕獲しようとする場合にも、狩猟免許が必要となりますのでご注意ください。

特定鳥獣保護管理計画の実施にともない、シカについては防除対策によっても被害が防止できない場合に、農業被害の状況に応じて個体数の調整ができることとされています。

また、サルについては組織的追い払いなど、被害防除を行っても被害が軽減できず、人身被害が発生する恐れがある場合に、捕獲することができるとされています。



## 特定鳥獣保護管理計画

人と野生動物との共生をめざして

神奈川県では特定鳥獣保護管理計画を策定し、平成15年度から実施します。

これは、数が著しく増加または減少している鳥獣（特定鳥獣）がある場合に、生息状況などを勘案して、知事が定める長期的な保護管理の計画です。

具体的には、ニホンジカ及びニホンザルと、人とのあつれきを軽減解消し、共存を図るため、科学的な根拠に基づいて計画的に保護管理を実施していこうとするものです。

丹沢大山地域で生息しているシカについては、計画期間中1,500頭を下らないよう維持するものとしています。

### 計画の実施体制

県、市町村、農林業者、地域住民、農業団体、狩猟者などが連携して実施します。



## イノシシ



### 習性

- ・本来は昼行性（畑への出没は人がいない夜間）
- ・1産2～8子 ・年1回出産 ・交尾期は冬～初春 ・出産期は春～初夏
- ・初産は約2歳
- ・平均寿命は5～10歳
- ・通常群れは作りません。

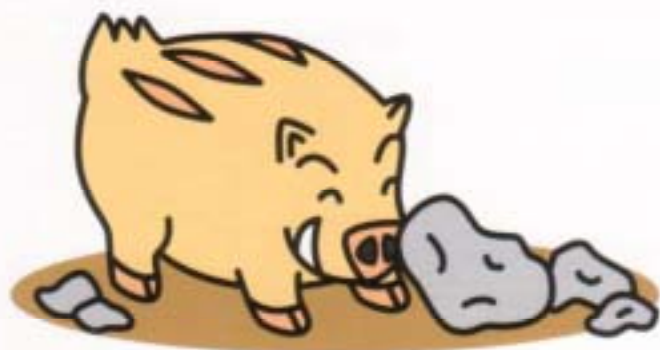
### 食物

たけのこ、落花生、いも類、とうもろこし、稲、ミミズ、昆虫、カエルなど

## 個人でできるイノシシ対策

### ①柵について

- 侵入防止柵にはかなりの強度が求められます。柵の外側に助走を困難にする構造物や、網などを置くことで効果が期待できます。構造物や網の位置は、柵から少し遠ざけることでイノシシの跳躍力を抑制することができます。
- イノシシは力が強いので、柵などの下をくぐられないようにするためには、石を置くよりも杭を打ち込むほうが有効です。



### ②その他

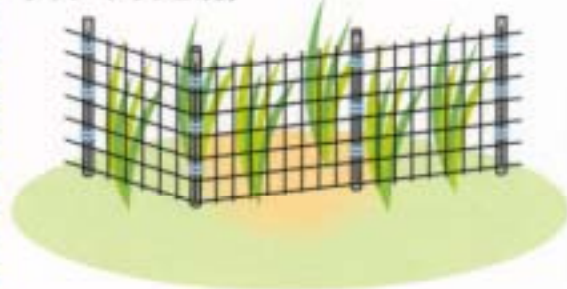
- 田畑周辺の耕作放棄地の刈り払いを行うことで、山から現れてくるイノシシの警戒心を高い状態に保つことができます。

## 地域でできるイノシシ対策

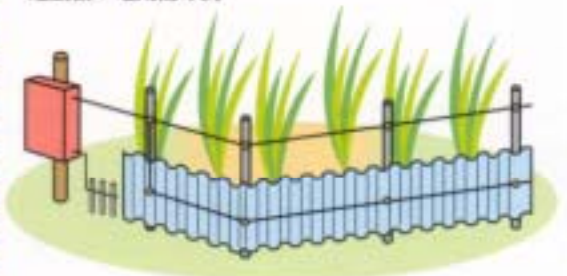
イノシシは高い知能を持った動物です。追い払いや狩猟による駆除など、組織的な対応が必要だといわれています。

### 侵入防止柵の例

#### ワイヤーメッシュの例



#### 瓦波板+電気柵の例



#### トタン+電気柵の例





## サル



### 習性

- ・昼行性
- ・1産1子 ・隔年出産 ・交尾期は秋～初冬 ・出産期は春～初夏 ・8歳までに初産
- ・寿命は20年前後
- ・群れで行動します。オスは単独行動する習性もあります。
- ・群れごとの行動域は、少し重複しながら隣り合っています。

### 食物

- ・ヤマザクラ、アケビ、ドングリ、いも類、ミカン、タマネギ、昆虫など

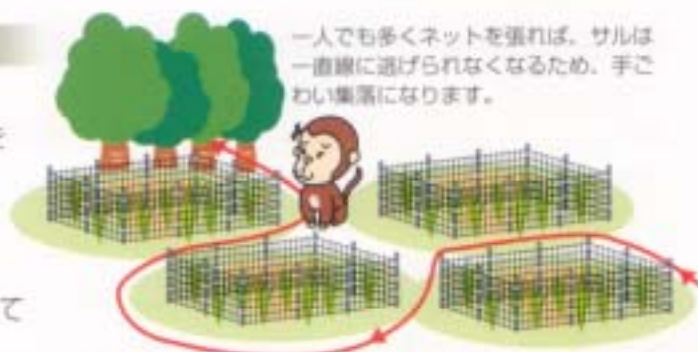
### 個人でできるサル対策

#### ①餌付けにつながる要因をなくするのが鉄則

取り残した農作物の除去、庭の果樹の除去または早期収穫を心がけましょう。屋外の直売品は、適正に管理しましょう。また、人家の戸締りを徹底しましょう。

#### ②畑を守るための柵や、ネット

一人でも多くの人がネットを張れば、それだけサルにとって手ごわい集落になります。



一人でも多くネットを張れば、サルは一直線に逃げられなくなるため、手ごわい集落になります。

### 地域でできるサル対策

#### ①畑を囲い込む。

②自分の畑にとらわれず、地域ぐるみでの追い払いがサル・イノシシについては大事です。

③集落内の被害発生地区において、野菜くずのコンポスト化の徹底やカキ・クリの一齐収穫などに努めましょう。

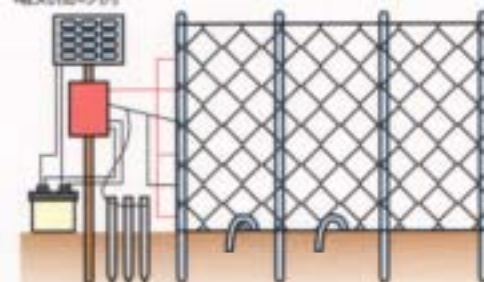
④サルの群れがどう動いているか、情報を把握しましょう。

大山丹沢地域のサル（日向群・約27頭、大山群・約60頭）については農地への出没が通年にわたっています。農作物への依存の度合いが強いため、対策としては組織的な追い払いが第一に挙げられています。

神奈川県では、平成14年度から3カ年の事業として、ニホンザル被害対策事業を行っています。この事業は、地域での追い払いの効果をより高めるため、サルの群れを追跡して、群れの状況、行動特性を把握するものです。

### サル用被害防除用具の例

#### 電気柵の例



#### 簡易柵の例

サルが登ると支柱が曲がって落ちるしかけ



犬を飼う  
「犬狼の仲」というだけに、効果があります。





# 生態と対策

動物の特徴を知って、被害を最小限に食い止める

## シカ



### 習性

- ・昼夜の区別なく活動します。(畑への出没は人がいない夜間)
- ・1産1子 ・年1回出産 ・交尾期は秋 ・出産期は春～初夏 ・初産は約2歳
- ・寿命は、オス10～12年、メス15～20年(地域差があります)
- ・通常オス、メスで別々のグループを作ります。
- ・冬は雪の少ない場所に移動します。
- ・大食漢で、1日に5キロ以上を食べます。

### 食物

- ・アセビ等の特定種を除いて、ほとんど全ての植物を食べます。

## 個人でできるシカ対策

### ①柵について

シカによる農作物被害を防止するもっとも効果的な方法は、植林地や畑を柵で囲うことです。ネットフェンスが有効といわれています。

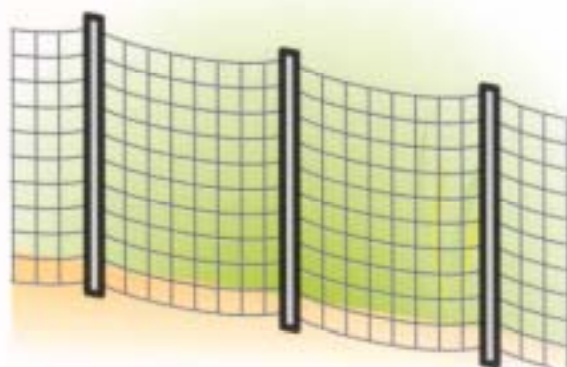
魚網、防風網が使われることがありますが、網にシカが絡まり穴があくことがあります。日頃から柵の管理に気を配る必要があります。

また竹を縦に割ってつなげ、塀にしてシカの侵入を防いでいる例もあります。

(柵の効果を生かすために工夫している例)

- 竹を置くなどして足場を不安定にする
  - 着地場所を見えなくする
- ### ②その他の方法
- 回転灯や点滅ライトによる威嚇
  - オオカミ(犬)などの天敵の糞尿、古タイヤ、様々な刺激臭などによる嗅覚的刺激
  - 爆竹、警戒音、鉄砲の音などによる威嚇

ネットフェンスの例



## 地域でできるシカ対策

- ①広域獣害防止柵の管理
- ②被害状況の情報交換
- ③狩猟による駆除

### 広域獣害防止柵について

神奈川県では、平成14年度から3カ年の事業として、市町村と連携協力して農地と森林の境界部に基幹となる広域獣害防止柵を設置します。





## なぜ、被害が起こる？

シカ・サル・イノシシたちの事情

### 【野生動物全般】

植栽地での間伐などの手入れ不足や開発により、野生動物の食物や生息地が減少しています。

一方、中山間地域などでは、高齢化などにより人間の生産活動が低下し、遊休農地が増加しています。

このように、農作物被害が増加している背景には、シカ・サル・イノシシなどの野生動物と、人間の双方の事情があるといわれています。

### 【シカ】

- ・捕食者であるニホンオオカミが絶滅してしまいました。
- ・森林伐採の結果、食物を得やすくなり、個体数が急増しています。



増えすぎたシカが丹沢・大山の自然環境に及ぼす影響

シカの過剰な採食による植生への影響が深刻になってきています。森林の生態系への影響や森林の生育基盤の劣化が起こっています。また、水源涵養機能などの低下が心配されています。

### 【サル】

- ・放置された果樹園などがサルの餌場となり、数が増えたり、人里近くまで分布が拡大しています。



### 【イノシシ】

- ・中山間地域の水田などが耕作されなくなり、イノシシの餌場や、隠れ場になったため、個体数が増加しています。



## 被害をなくすには

まず、これだけはやりましょう

### ●誘引しない

取り残したクリ、カキ、シイタケなどは、知らず知らずのうちに野生動物を畑に引き寄せています。なぜならば、彼らに餌を与えているのと同じだからです。

収穫に適した時期があるわけですが、早めに収穫することが被害防止につながります。

### ●裏山の見通しをよくする

畑周辺にツルや草が繁茂していると、野生動物はその「やぶ」を伝って、畑に忍び寄ってきます。ですから、草刈りをして、見通しを確保し、接近ルートを断ちましょう。

### ●追い払い、見張り

畑に野生動物が出てきたら、追い払いましょう。畑の近くで談笑したり、ゲートボールをすることも、畑を見張っていることになります。



最高の餌場を見つけた彼らは、いつも機会をねらっています。



## 鳥獣対策窓口 (市・県)

秦野市役所農産課・環境保全課  
〒257-8501 秦野市桜町1-3-2  
TEL : 0463-82-5111

伊勢原市役所農政課・環境保全課  
〒259-1188 伊勢原市田中348  
TEL : 0463-94-4711

神奈川県湘南地区行政センター環境部環境調整課  
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-1  
TEL : 0463-22-2711 内線253~254

豊かな自然に恵まれた丹沢大山地域で、  
野生動物による農作物被害が深刻になっています。  
このような状況から、湘南地域鳥獣対策協議会では、  
ほかの地域の例などを盛り込み、このリーフレットを  
作成しました。皆さんの田畑や、家庭菜園の農作物を  
守り、被害を少しでも軽減するためにご活用ください。

### 湘南地域鳥獣対策協議会について

湘南地域の適正な鳥獣の保護と管理の施策を効果的に推進することを目的に設置され、市、農協、猟友会及び県を構成員としています。  
事務局：神奈川県湘南地区行政センター環境部

古紙配合率100%再生紙を使用しています。(平成15年1月)